

いつもスピード土留をご愛用いただき、誠にありがとうございます。ご使用前に、必ず本取扱説明書をお読みの上、取扱には十分に注意を払っていただきますようお願い致します。注意の怠り、誤った使用方法、規格外での使用、目的外で使用された場合など、重大な事故を発生させる原因になりますので、正しくご使用下さい。

アルミ製水圧式土留支保工

スピード土留

取扱説明書

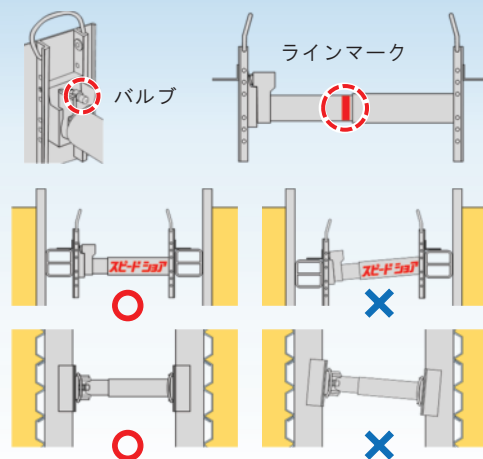
取扱上のご注意

ご使用前に

- 施工時は労働安全衛生規則・通達に従って施工して下さい。
- 事前に土圧強度をご確認の上、ご使用願います。土圧強度の計算は、取扱店までご依頼下さい。
- 製品強度に関する詳しい内容は、当製品の強度計算書をご覧ください。
- 製品の取扱時は、保護眼鏡及び保護手袋を着用して下さい。

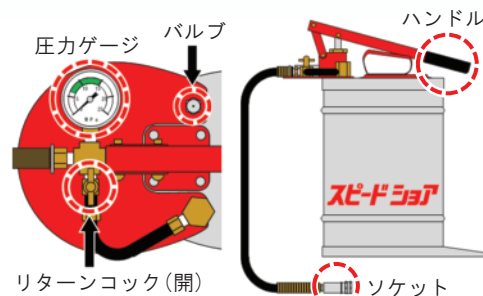
水圧シリンダー

- 水圧ポンプとの接続時、バルブに土砂が付着している場合は、布で拭き落とすか、水道水で洗い流して下さい。土砂が付着したままでは、きっちりと接続ができないため、水圧ポンプでの加圧時に水溶液の漏れが発生し、正常に加圧されません。
- 規定ストロークの最長位置に赤色のラインマークを設けています。このマークを越えて使用すると、許容軸力が規格値を下回るため、大変危険です。使用を中止し、長い型式と交換して下さい。
- 水平かつ腹起し(土壁面)に対して直角に設置して下さい。斜めに設置すると、許容軸力が規格値を下回るため、大変危険です。
- 減圧時にバルブから内部の水溶液が吹き出しますので、なるべくバルブに顔を近付けないように作業を行って下さい。内部から吹き出した水溶液が目に入った場合は、直ちに清潔な水道水で15分以上洗眼した後、専門医を受診して下さい。又、皮膚に付着した場合は、清潔な水道水で洗い流して下さい。



水圧ポンプ

- タンクのふたを開閉する時は、土砂がタンク内に入らないよう、充分に注意して下さい。土砂が混入すると、水圧シリンダーの故障原因になります。
- 水圧シリンダーとの接続時、ホースのソケットに土砂が付着している場合は、布で拭き落とすか、水道水で洗い流して下さい。土砂が付着したままでは、きっちりと接続ができないため、水圧シリンダーの加圧時に水溶液の漏れが発生し、正常に加圧できません。
- 加圧時は、圧力ゲージの指針が目盛りのグリーンの範囲(6~15 MPa)に収まるように加圧して下さい。
- 水圧シリンダーを正常に加圧できない場合は、エア抜き作業を行って下さい。リターンコックを開けてホースのソケットを水圧ポンプのバルブに接続し、ハンドルを数回上下に稼働させてタンク内の水溶液が循環すると、エア抜きの完了です。



腹起し

- ワイヤーを手で握る時は、必ず厚手の保護手袋を着用して下さい。素手で握ると、手を損傷する危険があります。
- 脱着防止のため、設置中はチェーン等でしっかりと吊り下げて下さい。

添加液

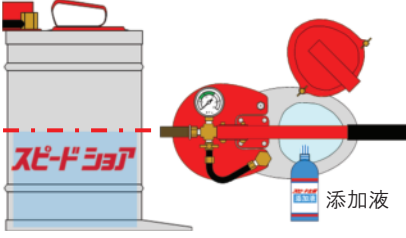
- ポンプのタンク容量の約半分(9~10ℓ)まで水道水を入れ、その水に添加液(0.5ℓ)1本(全量)を注いで下さい。
- 添加液(原液)は、生分解性が高いアルカリ性の水溶液です。廃液の処分方法は、各自自治体の指示に従って下さい。
- 添加液使用後の空容器の処分方法は、各自自治体の指示に従って下さい。
- 目に入ったり、皮膚に触れたりすると炎症を起す場合があります。万一、目に入った場合は、直ちに清潔な水道水で15分以上洗眼した後、専門医を受診して下さい。又、皮膚に付着した場合は、直ちに清潔な水道水と石鹼で洗い流して下さい。

不凍液

- 冬季に寒冷地でご使用の場合、凍結防止のため、添加液を混入したポンプのタンク内の水溶液に対し、容器に表示された適量の不凍液を加えて下さい。
- 不凍液(原液)は、弱アルカリ性の水溶液です。廃液の処分方法は、各自自治体の指示に従って下さい。
- 不凍液使用後の空容器の処分方法は、各自自治体の指示に従って下さい。
- 目に入ったり、皮膚に触れたりすると炎症を起す場合があります。万一、目に入った場合は、直ちに清潔な水道水で15分以上洗眼した後、専門医を受診して下さい。又、皮膚に付着した場合は、直ちに清潔な水道水と石鹼で洗い流して下さい。

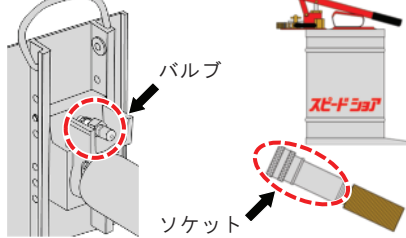
スピード土留作業手順

全ての作業は、掘削溝に入る事なく、地上から安全に行えます。作業時は、保護眼鏡及び保護手袋を着用して下さい。



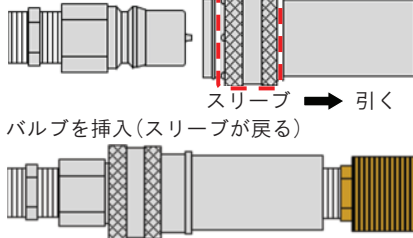
1 水圧ポンプのタンクのふたを開け、タンク容量の約半分(9~10ℓ)まで水道水を入れて下さい。次に、添加液(0.5ℓ)を1本(全量)注ぎ、タンクのふたを閉めて下さい。

▲土砂がタンク内に入らないよう、充分に注意して下さい。



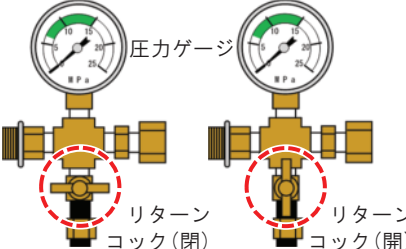
2 水圧シリンダーのバルブと水圧ポンプのホース先端のソケットの内側に土砂が付着していない事を確認して下さい。

▲土砂が付着している場合は、布で拭き落とすか、水道水で洗い流して下さい。



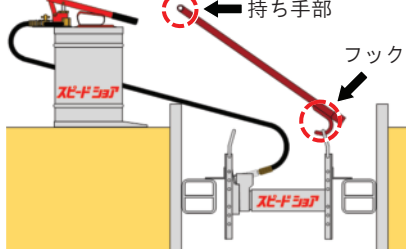
3 水圧ポンプのソケットのスリーブを矢印の方向へ指で引きながらバルブを奥まで挿入し、スリーブから指を離して元の位置に戻ると接続完了です。

▲接続後、ホースを手で引っ張り、バルブからソケットが抜け難い事を確認して下さい。



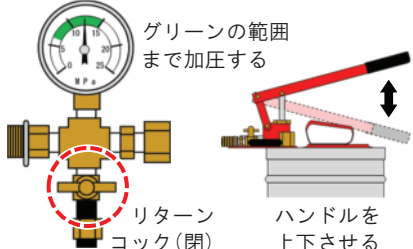
4 水圧ポンプの圧力ゲージの指針が0(ゼロ)を示している事を確認して下さい。

▲0(ゼロ)を示していない場合は、水圧ポンプのコックを開けると、ホース内の圧力が抜け、指針が0(ゼロ)を示します。



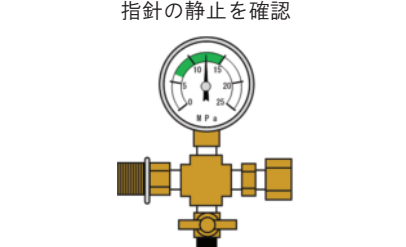
5 取り外し用工具のフックを利用して、水圧シリンダーを掘削溝内の所定の位置に設置して下さい。

▲水圧シリンダーは、水平かつ腹起し(土壁面)に対して直角に設置して下さい。



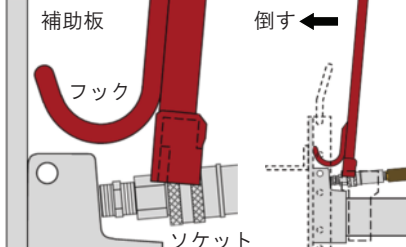
6 水圧ポンプのコックを閉め、ハンドルを上下に稼働させると、タンク内の水溶液が水圧シリンダー内に注入され、伸長して加圧されます。

▲水圧ポンプのゲージの指針がグリーンの範囲(6~15MPa)に収まるように加圧して下さい。



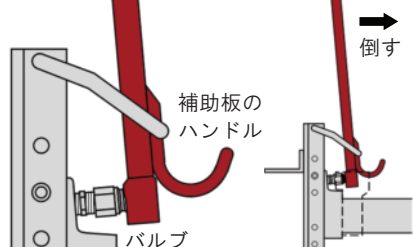
7 水圧ポンプによる加圧が終了後、5秒以上水圧ポンプのゲージの指針が静止している事を確認して下さい。

▲指針が降下する場合は、水圧が漏れている可能性がありますので、その水圧シリンダーは、使用しないで下さい。



8 上図のように、取り外し用工具の先端を水圧ポンプのソケットの先端に引掛けて下さい。水圧シリンダーの補助板に取り外し用工具のフックを押し当て、持ち手部を矢印の方向へ倒すとポンプのホースが外れます。

▲外れたホースが掘削溝に落下した場合、ソケットが破損したりソケットに土砂が付着したりするため、片手でポンプのホースを握りながら行って下さい。



9 水圧シリンダーの補助板のハンドルを倒し、ハンドルの内側に取り外し用工具を入れて下さい。上図のように、水圧シリンダーのバルブに取り外し用工具の先端を押し当て、持ち手部を矢印の方向へ倒すとバルブから内部の水溶液が吹き出し、水圧シリンダーが縮みます。

▲水圧シリンダーが縮めば、取り外し用工具のフックに水圧シリンダーの補助板のハンドルを引掛けて撤去が行えます。

ご不明な点やお気付きの点がございましたら、取扱店までお問い合わせ願います。



日本スピードショア株式会社

本社・研修所 / 〒575-0013 大阪府四條畷市田原台8-2-5
 TEL. 0743-78-9000 FAX. 0743-78-8738
<http://speedshore.co.jp>

取扱店

